

## コロナ禍における行動・意識の時間的变化

班員：岸川知樹、横田崇成、池田千紘、田中大輔、古市麻菜子、丹路遥斗

指導教員：和田健太郎

TA：小松崎諒子

### 1 背景

新型コロナウイルスは世界に大きな混乱をもたらし、政府が緊急事態宣言を発令するなど人々の行動に大きな影響を及ぼしている。その後、5月25日には全都道府県で緊急事態宣言が解除された。

班員内での話し合いにおいて、「外出を自粛し、買い物にあまり行かない」人と、「自粛しないで毎日コンビニエンスストアにアイスを買いに行く」人があり、班員内においても行動に差があった。そのことから、コロナウイルスに対する意識の違いが行動にどう影響するのかに興味を持った。

#### 1-1. 周囲の環境変化

食事に関する周囲の環境変化について、大きく3つの段階（緊急事態宣言前、宣言下、宣言解除後）に分けることができる。緊急事態宣言前では、海外から国内に持ち込まれたウイルスにより、次々に感染者が発生し、感染拡大を受け、外出自粛要請を行われ始めた。

宣言下では、飲食店の営業自粛の動きが広まった。飲食店は、テイクアウトに活路を見出し始め、休業する店舗も現れだした。

そして宣言解除後は、飲食店も順次再開する動きが出るなど、日常に近い暮らしが取り戻されつつある。

現在の私たちはこうした自粛生活に無意識のうちに適合し、コロナと共存する第二段階に踏み出している過渡期にある。このことから、人々の心理や行動がコロナによって揺れ動いている現状の社会状態は、調査にあたり貴重な期間であるといえる。

#### 1-2. 個人の意識・行動の差・変化

個人の考え方や性格で意識や行動は変わってしま

う。しかし、これらの要因に加えて、その人がおかれている周囲の状況や、居住環境といった環境の要因や、コロナウイルス感染者数・コロナウイルスに対する政府の対応など、世の中の状況といった要因も個人の意識・行動に影響を与える。また、個人の周辺環境や世の中の状況は時々刻々と変わるものであるため、個人の意識・行動も時々刻々と変化していくものと考えられる。

また、普段、直接会うことができる時には、どのような情報を得て、どのような意識になり、どのような行動をしたのかを、個人間で共有することができたが、コロナ禍の中で人と人とが直接会うことが難しくなっている状況では、意識・行動を共有することは難しくなっている。このような特異な状況下で、調査を行い、データを得ることは有意義であると考えられる。

#### 1-3. 食行動に現れる意識の差、変化

食行動は人が生きていくうえで必要不可欠なものである。また、オンライン授業の様に他者がその行動を監視、強制するものと比べ食事はプライベートなものである。そのそのため、どう行動するかを選択は個人の意識の差、変化によって変わる。

### 2 目的

筑波大生の新型コロナウイルスに対する意識と行動を時間的变化に着目し、食生活を通して調べる。

### 3 研究の位置付け

この調査の位置づけを説明するため、コロナウイルスの流行と同様に人々の意識や行動に大きく影響した可能性のある、過去の感染症や大規模災害を調

査した研究を調べた。

まず、SARS については 2006 年に池田らが、「外国人就学生における重症急性呼吸器症候群 (SARS) に対する知識・態度・行動についての調査研究」において、外国人就学生の感染対策の基礎情報を収集することを目的とし、彼らの知識、態度、行動を調査している。

次に新型インフルエンザについては 2010 年に吉井らが、「幼児を持つ親の新型インフルエンザ対策の実態と今後の展望」において、流行を受けて幼児を抱える親が行っている対策とその実態を明らかにすることを目的とし、家庭に対して行動変容の有無を調査している。

最後に東日本大震災については 2013 年に高野らが、「東日本大震災における被災者生活環境の時間的変化の評価」において、発災後における被災者の生存・生活環境を評価するシステムを構築し、その有効性を検証することを目的とし、被災者の主なニーズの変化を調査している。

上記の研究のように、被害を受けた個人の意識や行動を 1 つの指標として、過去の感染症や震災の実態の把握や何らかの取り組みが行われている。よって、現在のコロナ禍においても、同様に人々の意識や行動を把握することは必要であるといえる。

また、「時間的変化」に着目する理由としては、現在は感染に対する混乱から適応し、ニューノーマルと呼ばれる新しい日常へと変わる点に位置している。そのため、時々刻々と変わるであろう人々の意識や行動をリアルタイムで把握することができることは価値があると考えているからだ。

## 4 仮説

### 4-1. 仮説 1

個人の居住環境に関する仮説として以下の 2 つを設定している。

- ①実家に住む人と比べて一人暮らしの人は自 粛の度合いが小さく、楽観的である。
- ②緊急事態宣言が出ていた都道府県に住んでいる人は、そうでない人と比べて買い物頻度が低い。

### 4-2. 仮説 2

罪悪感に関する仮説として以下の 2 つを設定している。

- ①罪悪感を感じない人は自分への自 粛評価が低い。
- ②罪悪感を感じる人ほど自 粛をする傾向がある。

### 4-3. 仮説 3

楽観的、悲観的な性格に関する仮説として以下の 3 つを設定している。

- ① 1 人暮らしかつ悲観的な人ほど自 粛をする傾向がある。
- ②新型コロナウイルス感染拡大に悲観的な人ほど自 粛をする傾向がある。
- ③新型コロナウイルス感染拡大に楽観的な人ほど自 粛をしない傾向がある。

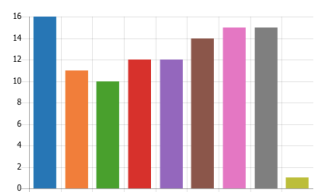
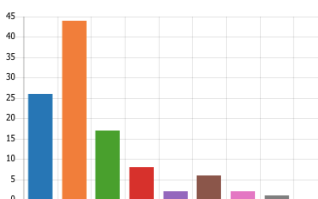
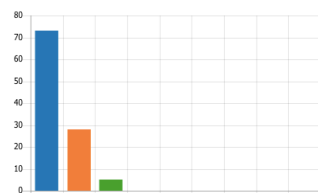
## 5 アンケートの調査概要

- ・調査対象：筑波大学 学群生・大学院生
- ・方法：Microsoft Forms（継続調査のため、個人を判別して追跡する必要があるため、また、追跡調査の積極的参加を図るため、一部情報のフィードバックを行う）

・調査期間：2020. 5/25～6/9
第 1 回：5/18～5/24 までの内容を 5/25～5/26 に回答してもらう
第 2 回：5/25～5/31 までの内容を 6/1～6/2 に回答してもらう
第 3 回：6/1～6/7 までの内容を 6/8～6/9 に回答してもらう

- ・調査項目：属性、行動、意識  
(初回)

個人属性	性別・居住地・以前のライフスタイル・学年・出身地・所属学類・アルバイト
直近の一週間の行動調査	買い物回数・食事形態・マスクの着用
新型コロナウイルス に対する意識	新型コロナウイルス に対する意識 新型コロナウイルス拡大 前の意識 ・新型コロナウイルス の影響による行動 の変化に対する意識 ・自粛行動に対する 評価・今後の展望予 測



上から図 1-1, 1-2, 1-3

5/18(月)～5/24(日)の一週間における外食の回数(図1-1)、中食の回数(図1-2)、自炊の回数(図1-3)である。外食はほとんどの人が0回であるのに対し、中食と自炊の割合は人によって全く異なっている。具体的には全く自炊をせずすべて中食で済ませる人がいる一方、ほとんどを自炊で済ませる人、自炊と中食を組み合わせる人など個人によってバラバラになっている。

5/25に全都道府県で緊急事態宣言が解除され、今後の動向が変化していくタイミングでアンケートを取ることができた。3週間に渡っての追跡調査となるので、筑波大生が新しい日常にどう適応していくかの過程をうまく捉えられることを期待して引き続き調査を行う。

## 7 今後の予定

今後は、アンケート調査を引き続き行っていく、回答結果を集計し、分析する。

そして、属性・行動・意識の関係性を項目ごとに整理し、意識、そして行動が新しい日常へと適応する様子を食生活行動を通して探る。

## 8. 参考文献

(二回目、三回目)

直近の一週間の行動調査	買い物回数・食事形態・マスクの着用
新型コロナウイルス に対する意識	新型コロナウイルス の影響による行動 の変化に対する意識 ：自粛行動に対する 評価・後の展望予 測

## 6 現在の進捗(5/26 21時30分時点)

### 6-1. 回答状況

- ・Team 参加人数：138 人
- ・アンケート回答者数：106 名

### 6-2. 現時点で得られているデータ

- 外国人就学生における重症呼吸器症候群(SARS)に対する知識・態度・行動についての調査研究(池田ら、2006)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaih/21/3/21\\_3\\_177/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaih/21/3/21_3_177/_pdf/-char/ja)

最終閲覧日：2020年5月27日

- 幼児を持つ親の新型インフルエンザ対策の実態と今後の展望(吉井ら、2010)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsnr/33/3/33\\_20100721288/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjsnr/33/3/33_20100721288/_pdf/-char/ja)

最終閲覧日：2020年5月27日

- 東日本大震災における被災者生活環境の時間的変化の評価(高野ら、2013)

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/69/5/69\\_I\\_125/\\_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/69/5/69_I_125/_pdf/-char/ja)

最終閲覧日：2020年5月27日

- 平成26年度 食料・農業・農村白書(1) 食料消費の動向；農林水産省

[https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w\\_maff/h26/h26\\_h/trend/part1/chap1/c1\\_3\\_01.html](https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h26/h26_h/trend/part1/chap1/c1_3_01.html)

最終閲覧日：2020年5月19日

- 2019年度版 惣菜白書ーダイジェスト版ー；一般社団法人日本惣菜協会

[http://www.nsouzai-kyoukai.or.jp/wp-content/uploads/hpb-media/hakusho2019\\_digest.pdf](http://www.nsouzai-kyoukai.or.jp/wp-content/uploads/hpb-media/hakusho2019_digest.pdf)

最終閲覧日：2020年5月19日

- 課外活動における新型コロナウイルス感染拡大防止対応について(要請)

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202002281050.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 課外活動における新型コロナウイルス感染拡大防止対応に関する期間延長について(要請)

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202003121353.html>

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%ab%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202004100909.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 【重要】緊急事態宣言発令に伴う課外活動の自粛について(要請)

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202005011115.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 課外活動自粛期間の変更について(要請)

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202005011115.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 筑波大学の学生・大学院生の皆さんへ

<http://www.tsukuba.ac.jp/%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA/n202003190941.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 平成30年度外食産業市場規模推計について；一般社団法人日本フードサービス協会

<http://anan-zaidan.or.jp/data/2019-1-1.pdf>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 外食・中食・内食

<http://kinkiagri.or.jp/library/foods/gai-naka-shoku.htm>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 新型コロナウイルス感染症の拡大状況を踏まえた対応について

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/ceremony/orientation-2020-5.html>

最終閲覧日：2020年5月19日

- 2020年度学年暦

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/calendar/index.html>

最終閲覧日：2020年5月19日